

「アキラ、運命を運ぶ」
子カ

と、馬にのり、一匹の
街道を山の方へ歩いてゆく。

「アキラ！」
と、河童に。

「アキラ？」

「~~アキラ~~ 山越え先手組。
木の下で待つ。アキラの足
流れる川にアキラの家を流す…」

次郎丸、河童を呼び、
街道を山の方へ。

「アキラ、アキラ？」

「~~アキラ~~ 山越え先手組
この道は先手組の道。馬にのり
歩いてゆく。

アキラは山越え先手組。
アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ？」

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」

「アキラ、アキラ」

ACT 2

○ ~~アキラ~~ 夜
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」

「アキラ、アキラ」

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

山越え先手組「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」

山越え先手組 3人、アキラ。

次郎丸「アキラ、アキラ、アキラ」

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ」

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

次郎丸、アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

山越え先手組「アキラ、アキラ、アキラ」
アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

アキラは山越え先手組、アキラは山越え先手組。

「つくし！」

「金銀に取られるは...」

「水の上で金銀を盗むか！」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで逃げた。」

「盗んで山賊に... 刀を盗んで...」

「盗んで山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

x x x

「盗んで... 山賊に...」

~~盗んで... 山賊に...~~

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

「盗んで... 山賊に...」

父の所へ... 盗んで...

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

山賊... 盗んで...

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

x x x

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

「盗んで...」

○ ~~夜明け~~
夜明け
同.

~~宇宙船~~

かなり大は股に流れている。
山に取られた川は流れている。
父河童、河童、河童の日を
大量に持っている。

河童、晩時をTを外して、次郎丸へ。

「たしかにもうT。詳しく調べたい」
次郎丸、船の大小を河童へおぼせろ。

「之」
「人車にのり道見は、もう便かん。」

~~大平のせい~~
「T成が七世也」

「これか?」
「あ、あ、あ、研究させておくれ」

「~~大平~~」 「...」
「...」

~~宇宙船はたのびて河童に~~

「次郎丸。平賀次郎丸をかたしめろ」

「あ。たのびておくれ、Tはね。
Tの各前は 〇〇x△x△ (不思議な発音)」

「IL...」

「〇〇x△x△」

「ILキリル? ~~大平のせい~~」

「~~大平~~
「たしかにTはたのびて感じ」

X X X

出発する宇宙船。 「運着して!」

空の彼方へ。流れていく、流れていく。
見送る次郎丸。

○ 休日、T成

上下を着て、^{つかやせもそり} T成に近づいた

次郎丸。
その左腕には、河童の腕時計。

NA

左手にかざりておけ。

腕の刀は竹光という。

へんてこな侍がいたという記録がある。

金もあらず。 ^{毎日毎日} ~~毎日毎日~~ たびたび
を研究してのぞ。 「たびたび侍」と

0年は山にまらな。

有名な発明家。平賀源内。三代前

の先祖の話。

空を飛ぶ「次郎丸。〇〇とかわらぬ」
「おきやう」

○ タイトル 「たびたび侍」

○ インターバル。